

ずんだもん シナリオ

つむぎ澤さま 監修

テーマ

水木しげるの一生

参考動画

水木しげるの生命力が高すぎる【ずんだもん ゆっくり解説】

<https://www.youtube.com/watch?v=F0s4bZlx3DM>

参考サイト

ゲゲゲ通信

<https://www.mizukipro.com/>

水木しげる ウィキペディア

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B4%E6%9C%A8%E3%81%97%E3%81%92%E3%82%8B>

武良布枝 ウィキペディア

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E8%89%AF%E5%B8%83%E6%9E%9D>

登場人物

水木しげる...ゲゲゲの鬼太郎の作者。ずんだもんが演じる

武良 布枝(むらぬのえ)...水木の奥さん。めたんが演じる

【布枝の実家】

ずんだナレ:それは、1961年のこと。ここは、とあるド田舎

めたん:はあ、私いつになったら結婚できるのかしら

めたん:もう29歳。行き遅れになっちゃったよ...

(ずんだもんの補足)

ずんだ:彼女の名前は、飯塚 布枝。のちに武良布枝と姓を改めることになる

ずんだ:そして、ボクの人生に深く関わってくことになる女性なのだ

ずんだ:え、ボクは誰かって！ずんだもんなのだ！枝豆の妖精なのだ

ずんだ:でも、今日はみんなもビックリのあの人になって登場するのだ！

ずんだ:おっと、誰か来たぞ。ボクは退散するのだ

(叔父がやってくる)

叔父:おーい。布枝、行き遅れの布枝

めたん:ちょっと叔父さん！行き遅れって、さすがに酷いから！私だって気にしてるの！

叔父:いやー、上の姉2人はとくに片付いたのになんでお前は嫁に行っていないんだか

めたん:だいたい、お嫁に行かないと一人前じゃないっておかしいわ

(補足)

ずんだ:ちょっと補足なのだ

ずんだ:この当時はまだ、成人したら結婚して家庭を持つのがあたり前の時代

ずんだ:今では29歳の女性が独身でも誰も気に留めないけど

ずんだ:この当時は30歳近い結婚は晩婚とされていたのだ

(叔父、めたんをあやす)

叔父:そんなにむくれるな。お前にいい縁談を持ってきたぞ

叔父:なんと、東京で漫画家をやっている好青年との縁談だ！

叔父:歳は40でちょっといってるが、それなりに売れてるし裕福な暮らしができるぞ！

めたん:え、東京の方が私とお見合い...(その気になるめたん)

叔父:ああ、武良しげるっていう漫画家の青年なんだがどうだ？

めたん:東京の方...漫画家...

叔父:ああ、これ以上ない縁談だぞお！

(お見合い写真を見せる叔父)

叔父:ほら、これが写真だ

めたん:え、これって、某枝豆の精？公式設定だと、女の子のはず...

叔父:うほおおおん！そこは、ツッコミ無用だ

叔父:ほらほら～。このまま行き遅れになってもいいのか...

めたん:く！わかったわ。このお見合い受けます...

叔父:よーしいい子だ！さっそく水木君にも、お前の返事を伝えておくよ

めたん:え、水木？

叔父:ああ、彼のペンネームだよ。以前は水木荘っていうアパートを営んでいてね

叔父:取引先の紙芝居屋が彼のことを、そう呼んでいたそう

叔父:それで、そのまま仕事の名前を水木しげるにしたんだと

めたん:へえ、水木しげる。なんだか、武良しげるより素敵な感じがする...

(ずんだもんの補足)

ずんだ:そう、布枝が見合いをしようとしている相手こそ！

ずんだ:後のゲゲゲの鬼太郎や悪魔くんを生み出した、妖怪漫画家水木しげるだったのだ

ずんだ:そしてボクは、その水木しげるなのだあ！

ずんだ:ボクが公式設定で女の子とか、枝豆の精とかそういうことは一切忘れるのだ

ずんだ:あと、めたんが布枝なのも突っ込まないで続きを見るのだ！

【料亭】

(ずんだとめたん、2人っきりで料亭の個室にいる)

ずんだナレ:こうして布枝はボクと見合いをすることになったんだけど...

ずんだ:いやあ、こんなお若い方とお見合いができるなんて思いもしなかったのだ

めたん:いえ、私ももう29ですし...

めたん(どうしよう。会話が續かない。男の人とお付き合いなんてしたことないもの...)

めたん(どうやって、切り抜けければいいのお！)

ずんだ:えっと、お茶もないしもらってきましようか(ずんだもん、立ち上がる)

めたん:いえ、それは私が...あ...(めたん、左腕がないことに注目)

ずんだ:ああ、左腕。気になりますよね

めたん:あの、すみません。聞いちゃいけないような気がして...

ずんだ:大丈夫。ボクの左腕を見た人は、みんな布枝さんみたいな反応なのだ

ずんだ:これが、普通なのだ

めたん:でも、その腕でどうやって絵を

ずんだ:ちょっと、紙とペンをお持ちですか？ないなら、ボクので

めたん:あの、どうぞ(紙とペンを渡す)

(鬼太郎と、目玉おやじの絵を描くずんだもん)

ずんだ:じゃ、お言葉に甘えて...右手ですするする...!

めたん:これは...

ずんだ:ああ、これは紙芝居で出してた鬼太郎ってキャラです

ずんだ:こっちは、鬼太郎の父親の目玉の親父

めたん:なんで、目玉が父親なんですか？

ずんだ:いやー、鬼太郎の父親は亡くなる寸前

ずんだ:息子を守るために目玉に妖力を集結させたんです

ずんだ:で、生き延びることができたって設定があったんですけどね...

ずんだ:はは...。紙芝居の業界もダメになって、鬼太郎の話も描けなくなったのだ

めたん:あの、それは残念でしたけど、私は素敵なお話だと思いますよ

ずんだ:そうなのだ！ やっぱ鬼太郎は素敵なのだ！

めたん:立ち直り早い！

ずんだ:いまでも、出版社に交渉して、鬼太郎の漫画が出せないか検討中なのだ

ずんだ:絶対に、こいつはボクたちを食べさせてくれるのだ！

めたん:ボクたち...

ずんだ:あ、すみません。まだ、結婚が決まったわけでもないのに...

めたん:うふふ...。水木さんって以外と面白い人なんですね(めたん、笑う)

めたん:それに凄いです。片腕だけで絵を描いちゃうなんて

めたん:しかも、売れっ子なんですよ

ずんだ:え、売れっ子？

めたん:違うんですか...

ずんだ:はは。まあまあ売れてると...思います(ずんだもん、乾いた笑い)

めたん:はあ...。でも、その腕はどうして？

ずんだ:ああこれは、ちょっと戦争で負傷しまして...

【回想、ラバウル】

(左腕を負傷し、軍医に診てもらうずんだもん)

ずんだナレ:それは、戦時中のラバウルでのことだったのだ...

ずんだ:敵の攻撃にやられたのだあ！

軍医:これはヤバい！ 今すぐに処置しないと、左腕を切ることになるぞ

軍医:君、血液型は！

ずんだ:えっとあっと...うわあああん！ 忘れたのだあああ！

ずんだ:混乱して、思いだせないいいい！

軍医:なんだってええええ！

ずんだナレ:こんな間抜けな理由で腕を切断することになって、前線からは離脱

(現地人と親しく話すずんだもん)

ずんだ:でも、療養先でボクは友達が出来たのだ

現地人・男:やあ、しげる！ 今日も来たか！

ずんだ:みんなも相変わらず、ゆっくりしてるのだ

現地人・男:だって、今日はもう狩りも終わったし、こんなに暑いんじゃない

現地人・女:そうそう。そういうときはゆっくり昼寝して過ごすのがいいよ

ずんだナレ:現地の人たちは、森と共に生きる昔ながらの生活を営んでいたのだ

ずんだナレ:それを見て、僕は思ったのだ。これが、生きてるってことなんだって

【料亭】

(回想終わり、自分の過去を話し終えるずんだもん)

ずんだ:彼らは腕のないボクのことにも普通に扱ってくれた

ずんだ:それどころか、終戦後は現地にとどまらないかと進めてくれたのだ
ずんだ:GHQに日本が占領されてそれはできなくなったけど...

めたん:しげるさん...

ずんだ:でもボクは、生きてこうやって絵が描ける

ずんだ:生きてれば、片腕だって何でもできるのだ

ずんだ:戦場で亡くなってしまった仲間たちの分も、ボクは生き抜かないと...

めたん:とっても、素敵な生き方ですね

ずんだ:うう...。そう言われると、照れくさいのだ(ずんだもん、照れる)

めたん:ふふ。照れ屋さんなどところも可愛い(めたん、笑う)

ずんだナレ:ボクの話聞いて、布枝はボクに嫁ぐことを決めたのだ

【布枝の実家】

(叔父の言葉に驚く布枝)

ずんだナレ:でも、そこからが苦難の連続だったのだ...

めたん:え、5日後に結婚？叔父さん！どういうこと

叔父:いや、しげる君の仕事が忙しくてね。その日しか、祝言に時間をとれないそうだ

めたん:ええ、なによそれ...

叔父:仕事は男の本分だ

叔父:お前だって、しげる君の人柄に惹かれて彼との結婚を決めたんだろ？

叔父:だったら、我慢してくれ

めたん:わ、わかった。でも、心の準備が...

叔父:大丈夫。嫁に行くときは、みんなそんな感じだよ

叔父:嫁を迎える男も、心の準備が出来てなくて心臓がバクバクだあ！

叔父:嫁さんとどう触れ合っているのか、わからないんだからな！

(ずんだもんの補足)

ずんだ:またまた、補足！

ずんだ:戦後すぐのこの時代では、今のような恋愛結婚が少なかったのだ

ずんだ:お見合いや、知り合いの紹介による結婚が大多数

ずんだ:そのため、交際期間もなく話がまとまるとそのまま嫁ぐことが一般的だったのだ

ずんだ:だから、新婚生活は今の倍、大変だったのだ！

【水木家・玄関前】

(ぼろい我が家に驚くめたん)

ずんだナレ:そして、布枝はどんな苦勞をしたかというと...

ずんだ:はあ、式が急で本当にすまないのだ。で、ここが新居になるんだけど...

めたん:ウチの実家の納屋より、ボロいんですが...

ずんだ:すまない。でも、中はキレイだから平気なのだ

めたん:ガラス窓。割れてますね...

ずんだ:頼む、追及はやめてくれなのだ...

ずんだナレ:その当時、ボクは収入源だった紙芝居の仕事が激減し、大ピンチだったのだ

ずんだナレ:紙芝居が廃れて、仕事が失くなったボクは貸本に自分の運命を託していた

【水木家】

(ずんだもんの側で貸本を読むめたん)

めたん:これが、しげるさんの漫画ですか

ずんだ:そう。赤本漫画。貸本漫画ともいうのだ

ずんだ:買うんじゃないくて、貸本屋でお金を払って借りるタイプの漫画なのだ

ずんだ:そのぶん、安く読めるから子供たちにも人気なのだ

ずんだ:で、今はその貸本漫画で何とか食べてるのが現状なのだ
めたん:つまり、売れてないと...
ずんだ:すまないのだ。それを言うと、結婚を断られると思って...
めたん:いえ、しげるさんのお人柄は存じ上げてます
めたん:これから、売ればいいですし、2人で頑張りましょう！
ずんだナレ:思い直した布枝は、ボクを支えることを決意してくれたのだけれど...

【数日後の水木家】

(ずんだもんの言葉に、驚くめたん)
ずんだ:ごめんなのだ。金がなくて米が買えない...
めたん:え、なんで！
ずんだ:その、原稿の代金がもらえなくて...
めたん:そんな。酷いわ...
ずんだ:仕方ないのだ。出版社もいろいろと資金繰りが大変みたいだから...
ずんだ:他のところは、相手にしてくれないし...
ずんだ:ボクがもっと売れっ子だったらなあ

(ずんだもんの補足)
ずんだ:当時の貸本業界は、人気はあってもきちんとした業界とは言い難かったのだ
ずんだ:例えば貸本を1冊描けば3万ほどの収入になったのだ
ずんだ:これは、当時の国家公務員の初任給は1万前後
ずんだ:貸本業界は漫画家にとって、稼げる業界といえたのだ
ずんだ:でもそれが許されるのは、面白い漫画を描ける売れっ子だけ
ずんだ:ボクのように売れない漫画家は、安く買叩かれることも多かった
ずんだ:その上、売り上げが悪いと、取引がなくなる厳しい業界
ずんだ:ボクの名前じゃ売れないからと、本の名義を勝手に変えられることもあったのだ

【水木家】

(晴れ着をずんだもんに見せる、めたん)
ずんだナレ:そのせいで、家計は常に火の車
ずんだナレ:布枝にも苦勞をかけることになったのだ
めたん:私の晴れ着。質に出してお金を借りましょうか
ずんだ:すまないのだ。布枝
めたん:これで、お米が買えるからいいじゃないですか。今は、食べることが先決ですよ
ずんだ:でも、これ以上は質にもものを貸したくないのだ
ずんだ:もう、質札が...
めたん:ええ、定規で測ってみたけど凄いですね。質札の厚さが3センチになってます
めたん:かなりモノを質に入れてるんですね
ずんだ:うう...。ボクの背広の一張羅も生活のために質に入れてるのだ
めたん:ああ、お見合いで着てきたやつ
ずんだ:あれは、友人に借りたもの...
ずんだ:布枝が来る前は、パンツすらも質に入れないとヤバい状態だったのだ
ずんだ:そのあと、原稿が売れて少しは楽になったけど...
めたん:なんというか、凄まじい生活ですね
ずんだ:ごめんなのだ。迷惑かけるのだ
めたん:大丈夫です。なんとか、乗り越えていきましょう

【水木家】

(ずんだもんの仕事を手伝うめたん)
ずんだナレ:こうして、ボクと布枝は貧しい生活をスタートさせたのだ

ずんだナレ:そして布枝は、絵にかいたような良妻だった...
めたん:あなた。ベタはこれで大丈夫？
ずんだ:布枝。凄いのだ。教えて間もないのに。もう、立派なアシスタントなのだ
めたん:だって、私が手伝った方が原稿がすぐにできるでしょう
めたん:そうすれば、生活だって少しは楽になりますよ
ずんだ:そうなのだ。生きてる限りは頑張らないと。戦地から戻ってきた意味がないのだ！
めたん:ふふ...。あなたのそういうところ、好きですよ
めたん:貧乏でも前向きでいればなんとかなりますから
ずんだ:そうなのだ！布枝の言うとおりののだ
めたん:う...。吐き気が...(めたん、吐きそうになる)
ずんだ:どうしたのだ？布枝
めたん:その、実は...赤ちゃんが出来たみたいで
ずんだ:ええ！本当なのか？
めたん:はい。婦人科に行って調べたから確実です
ずんだ:そんな...。この状態で、子供が出来たら、ちゃんと食べさせられない
ずんだ:布枝。ボクが絵が好きだけど、それ以上にお前たちのことが大切なのだ
ずんだ:だから、絵は辞めて他の仕事に就こうと思う
ずんだ:そうでないと、子供を食べさせられない

(ずんだもんを叱るめたん)

ずんだナレ:ボクは、新しい命を育むために筆を置こうと決意したのだ
ずんだナレ:でも...
めたん:ダメです！あなたは、生きるために絵を描いてきた！辞めたら絶対に後悔しますよ
ずんだ:布枝...
めたん:私も手伝いますから、もう少しだけ頑張りましょう
ずんだ:わかったのだ。布枝
めたん:こうしてボクは、布枝の説得もあり漫画を描き続けることに

【貸本屋】

(貸本屋で鬼太郎を読む子供たち)

ずんだナレ:そして、ボクたちのヒーローがこの窮地を救ってくれたのだ
少年:この墓場鬼太郎って面白えな！
タロ坊:ねえ、おじさん。続きある？これ、兄ちゃんも好きでさ
店主:タロ坊のあんちゃんはもう高校生だろう。こんなもん読んでどうするんだ？
タロ坊:それがさ、高校でも鬼太郎が大人気なんだって
タロ坊:出版社に続きだしてくださいって、みんなで嘆願書だすって兄ちゃんが言った
店主:ええ、ウソだろう！漫画は子供の読み物だぞ。なんで...
ずんだナレ:なんと、成長した子供たちが、大人になっても漫画を読むように
ずんだナレ:彼らのお気に入りの打ち切り作品、墓場鬼太郎の続刊が決まったのだ

【水木家】

(喜び合うめたとずんだもん)

めたん:あなた、鬼太郎の連載が再開よ！
ずんだ:やった。これで、尚子の洋服を買ってあげられるのだ！
めたん:オモチャもね！
ずんだ:で、ひさしぶりに白い米が食えるうう！
めたん:麦飯もよかったけど、すぐにお腹空いちゃうものねえ
めたん:これで、漬物もお味噌も、お塩だって買えるようになるわ
ずんだ:庭の野草を食べた生活ともおさらばなのだあ！

(心配を話し合うずんだもんとめたん)

ずんだナレ:ところが、鬼太郎の連載再開が決まっても

ずんだナレ:ボクの漫画家としての人生は波乱に満ちていたのだ

ずんだナレ:所属する出版社が倒産したり、鬼太郎以外の漫画は打ち切りが続いたり

ずんだナレ:でも、そんなときも布枝は側にいてくれた

ずんだ:鬼太郎、新しい出版社でも軌道に乗るといいんだけど...

めたん:大丈夫よ。前の出版社は、原稿料もくれなかったけど、今の会社は違う

めたん:それに週刊誌や月刊誌からの話も来てるんでしょう

ずんだ:そうなのだ

ずんだ:ああ、貸本屋もまた事態の波にのまれて衰退するかもしれない

ずんだ:これからは、雑誌の時代なのだ

ずんだ:ボクは、絶対に雑誌でも掲載される漫画家になる！

【水木家・玄関前】

(早朝、訪ねてきた編集の言葉に驚くずんだもん)

ずんだナレ:そして、ボクが45歳の年に運命の女神はついに微笑んだのだ

編集1:やりましたよ、水木先生！

編集1:別冊少年マガジンに掲載した『テレビくん』が！凄いことになりました

ずんだ:どうしたのだ。編集者さん。朝から騒がしいのだ...

編集1:テレビくんが、第4回講談社児童漫画賞を受賞したんです！

ずんだ:ええ、これって、ボクが見てる夢？

ずんだ:でなきゃ、こんな都合のいいことが起こる訳がない！

編集1:違いますよ。現実です！先生の漫画が認められたんですよ！

ずんだ:布枝、これは...。夢なのか？(やってきためたんに、尋ねるずんだもん)

めたん:あなた、夢じゃないわよ。現実よ

めたん:ついにあなたが世の中に認められたの

ずんだ:えええええええ！今まで鳴かず飛ばずだったのにいい！ありえないのだあ！

めたん:いや、そこまで驚く...

【水木家】

(仕事をしながら、編集たちに原稿をせがまれるずんだもんたち)

ずんだナレ:ここから漫画家 水木しげるの伝説は始まったのだ...

編集1:先生！鬼太郎の原稿あがりますかあ！

ずんだ:はいいい！いますぐうう！

編集2:新連載の悪魔くんのネームも今日中にお願ひします

めたん:ちょっとまって！夫は今、手が離せないんですう！

ずんだ:もうボクたちだけじゃ手が回らないのだ！スタッフを雇うのだあ！

ずんだナレ:ボクは急増した仕事をさばくために、水木プロダクションを立ち上げることに

ずんだナレ:その後も、怒涛の勢いでボクの漫画は売れ続けた！

【水木プロダクション】

(編集たちの言葉に、驚くずんだもん)

ずんだナレ:そして、1960年代後半には...

編集1:先生！鬼太郎のアニメ化が決定しました！

ずんだ:ええ！鬼太郎がアニメになっちゃうのぉ！

編集2:ついでに悪魔くんもドラマ化します！

ずんだ:悪魔くん、何度も打ちきり食らってたのにドラマ化！どうなってるのだ？

ずんだナレ:ボクの作品は次々と映像化。鬼太郎の影響で妖怪ブームまで巻き起こったのだ

【水木家】

(ずんだもん、メタンたちの誘いを断る)

ずんだナレ:でも、いいことばかりじゃなかった
めたん:あなた、今日はクリスマスだけど...
ずんだ:ああ、仕事が忙しいから予約してたディナーはキャンセルで
ずんだ:お前たちだけで行ってくれなのだ
尚子:そんな。お父さん...
ずんだ:ごめんな。尚子。お父さんの漫画をみんなが待ってるんだ
尚子:うん。わかってる。私、お父さんがいなくても平気...
ずんだナレ:ボクは仕事が忙しくて、大切だった家族とも過ごせなくなっていった

【水木プロダクション】

(調子の悪いずんだもんを心配するめたんたち)
ずんだナレ:さらには...
ずんだ:うう...眩暈が。キーンて音も鳴りやまないのだあ...
編集1:先生、大丈夫ですか？
めたん:あなた！
ずんだ:ボクは過度のストレスから、眩暈や耳鳴りを覚えるように
ずんだ(仕事はつづけたいでも、このままだとダメなのだ)
ずんだナレ:自分自身に限界を感じ、ボクは仕事を休むことにしたのだ

【ラバウル、都会】

(現地人たちと話し合うずんだもん)
ずんだナレ:そして、ボクが向かった先は...
ずんだ:ああ、ラバウル。懐かしいのだ。森に囲まれてたのに、すっかり都会になって...
現地人・男:しげる。会いたかったよ！
現地人・女:会いたかった！
ずんだ:みんなひさしぶりなのだ。今は、どんな生活してるのだ
ずんだ:やっぱり、ヒマなときは昼寝してる？
現地人・男:いや、昼寝なんてしてないよ。欲しいものがたくさんあるからね
現地人・女:そうそう。働いてる。そうでないと暮らしていけないし
ずんだ:なんか、昔と随分と違うのだ
現地人・男:もう、俺たちを育てていた森はないからね
現地人・女:私たちも、文明化された社会の元で暮らすしかないのよ
ずんだ:そうか。そうだったのか...
ずんだナレ:変わってしまった友人たちの故郷を見て、ボクは思ったのだ
ずんだナレ:彼らもボクらと同じ状態にあると。このままでは、ボクも彼らもいずれ...
ずんだナレ:文明の闇に飲まれて、疲れ果ててしまう。ボクはそんな恐怖を覚えたのだ

【飛行機の中】

(飛行機の中で、呟くずんだもん)
ずんだ:たしかに、働くことは大切なのだ
ずんだ:でも、働くことに振り回されて自分のペースを崩しちゃいけない
ずんだ:それに、忘れてはならないものを、ボクすらも忘れていた
ずんだ:ボクはそれを、ずっと漫画にしていたのに...

【水木プロダクション】

(総員玉砕せよの原稿を描く水木に声をかけるめたん)
ずんだナレ:それから、ボクは仕事をセーブし家族との時間を取り戻したのだ
ずんだナレ:そして...
めたん:あなた、それは...
ずんだ:総員玉砕せよ。ボクの戦時中の体験を記した漫画なのだ
ずんだ:ボクは今の人に伝えたいことがある

ずんだ:働いて、豊かになることだけが幸福なんじゃない...
めたん:そうね。今は、戦後すぐのときと違って、モノも仕事も溢れてる
めたん:でも、そのせいで、みんな大切なものを見失っている気がするわ
ずんだ:妖怪たちが、それを教えてくれたのだ
ずんだ:ボクは、忙しく生きる現代の人々に伝えたいのだ
ずんだ:戦争の虚しさ、悲しさ、生き残ることの大切さ
ずんだ:そして、ボクが戦場で出会ったありのままに生きる現地の人たちとの交流を...
ずんだ:そんな彼らの姿を、ボクは妖怪たちにも重ねていたのかもしれない
ずんだ:妖怪は、見えない世界との繋がりをボクたちに教えてくれる存在なのだ
ずんだ:コンクリートで固められた都会だけが、ボクたちの生きる場所じゃない
めたん:森に山...。それに、今は明るくなって見えなくなった暗闇の夜空
めたん:そこに煌めく星に、月に、それらを輝かせる太陽に
ずんだ:そう、ボクたちは見えないものと繋がり、それに生かされてる
ずんだ:それを忘れ、むやみに自分たちを育んでくれるものを破壊してはいけない...
めたん:そうね。私たちは、妖怪とまた仲良くなるべきだわ
ずんだナレ:ボクは思っていた。ボクたちは、自然に生かされているということ
ずんだナレ:そしてそれを、ボクが描いていた妖怪たちが教えてくれたのだ

【水木プロダクション】

(不貞腐れているずんだもん)
ずんだナレ:その後、ボクが巻き起こした妖怪ブームは沈静化。ヒマな時期が続いたのだ
ずんだナレ:でも、次女の悦子が修学旅行でとんでもないものをみてしまったのだ
ずんだ:はあ、やっぱり妖怪なんていないのかな？
ずんだ:あんなに持ち上げといて、こうやって干されるとさすがのボクも堪えるのだ
悦子:お父さん！大変だよ！（悦子が部屋に飛び込んでき）
ずんだ:どうしたのだ。悦子。修学旅行から帰って来たと思ったら...
悦子:尚子お姉ちゃんにはもう言ったんだけど、目々連(もくもくれん)みちゃった
悦子:お父さんの漫画のとそっくりだった！
ずんだ:ええ！あの、障子に無数の目が映り込む妖怪を？
悦子:そう！動き回ってるの友達とみた！やっぱり妖怪はいるんだよ！
ずんだ:ぬおおおお！こうしちゃいられないのだ！妖怪はいるのだ！（興奮するずんだもん）
ずんだ:売れないのがなんなのだ！ボクはそれでも漫画を描き続ける
悦子:お父さんがおかしくなった！どうしたの？(怯える悦子)
めたん:その意気をあなた！絶対に妖怪はいるわ
ずんだ:そうなのだ！布枝！ボクの友達をボクは描くべきなのだ！
ずんだナレ:こうして、落ちこんでいたボクは復活

【式場】

(勲章をもらうずんだもん)
ずんだナレ:その後も、鬼太郎がまたアニメになったり
ずんだナレ:布枝を主人公にしたドラマ『ゲゲゲの女房』がヒット
ずんだナレ:ボクの漫画の人気は再燃したのだ
ずんだナレ:そして1991年には
官僚:あなたの功績を讃えます
ずんだ:ありがとうなのだ
ずんだナレ:漫画画家としての功績が認められて紫綬褒章を
ずんだナレ:2003年には旭日小綬章を受賞したのだ

【墓前前】

(ずんだもんの墓参りに来るめたん)

ずんだナレ:そして2015年11月11日

めたん:まさか、家で倒れちゃったのがきっかけで病院で亡くなっちゃうなんて

めたん:まだ、93歳じゃない。もっと、生きられたんじゃないの？

めたん:私を残して逝っちゃうなんて、薄情な人...

めたん:それとも、あなたは妖怪たちのところに行っちゃたのかもね

ずんだナレ:ボクは93歳の生涯を終えたのだ

ずんだナレ:今でも、ボクの漫画は日本中の人たちに読み継がれている

ずんだナレ:ボクの漫画を通じて妖怪という存在は広く人々に知られるようになった

ずんだナレ:どうか、その妖怪たちの存在を忘れないで欲しいのだ

ずんだナレ:彼らはいつでも、君たちの側にいるから

【茶番劇】

ずんだ:うわー！水木しげる演じきったのだ！

めたん:私も、まさか水木さんの奥さん役をすることになるなんて...

ずんだ:でも、なんで水木しげるの生涯を私たちが演じなきゃいけなかったの？

めたん:ずんだものの他の動画を観ても、水木しげるの動画ってバズってない感じだし

ずんだ:ふふふふ！Youtubeではバズってなくても

ずんだ:全国の映画館で鬼太郎はバズっているのだ！

めたん:どういうこと？

ずんだ:鬼太郎誕生の謎に迫った劇場版『鬼太郎誕生ゲゲゲの謎』が大ヒット！

ずんだ:なんと、興行収入は10日時点で11億5000万！

ずんだ:観客動員数が前の週を上回るという異例のヒットを遂げているのだ

めたん:でも、なんで今になって鬼太郎の映画が？

ずんだ:2023年は水木しげる生誕100周年だったのだ！

ずんだ:それを記念して、劇場版のゲゲゲの謎はつくられたのだ

めたん:ええ！水木さんが産まれてから、もうそんなに経つの

ずんだ:さらに、ネットフリックスでも『悪魔くん』の新作アニメが配信中

ずんだ:映画のヒットに合わせて、じりじりと配信数を伸ばしているみたいなのだ

めたん:凄い！水木ブームが2023年に巻き起こっていたなんて！

ずんだ:亡くなってもなお、ボクたちに影響を与え続ける水木しげる

ずんだ:彼こそ、伝説ともいえる妖怪漫画家なのだ

めたん:そうね

めたん:きっとこれからも水木さんの作品は、形を変えて愛されていくでしょうね

【終】